

教育長 様

校番 122 戸手 高等学校長  
( 全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る  
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校  
令和3年度 実施報告書**

**1 学校の教育目標等**

(1) 教育目標

総合学科高校として、多様な学びを通じ、自らの道を切り拓き、変動する社会で活躍できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

育てたい生徒像「主体的に学び挑戦する生徒、地域に愛され地域に貢献できる生徒、自分と仲間を大切にする生徒」  
育成を目指す資質・能力「基礎・基本に基づく幅広い教養、気付き力、解決に向けて思考する力、論理的に相手に伝える力、仲間と協働する力」

(3) 学科等の特色

生徒一人一人の豊かな個性を大切にし、自分の進路をしっかりと見定め、学びたい科目を自分で考え選択できるように、5つの系列及び12のフィールドを設定し、“総合学科らしい総合学科”を目指して「得意創造・得意伸長」を掲げ、生徒の個性や地域との連携を大切にしながら教育活動を進めている。

**2 研究の概要**

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

社会と自己を関連づけ、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。

(2) 3年後の目指す学校の姿

「自ら探究し、仲間と協力し、未来を切り拓き、地域に貢献する楽しい戸手高校」

①生徒の姿

- ・主体的に課題を発見し解決することができる。
- ・しなやかで折れない心を持ち、仲間と協力して活動することができる。
- ・広い視野と高い目標を持ち、努力し挑戦し続けて未来を切り拓くことができる。
- ・地域に愛され、リーダーシップを発揮しながら地域のために貢献することができる。

②教職員の姿

- ・生徒の多様性を認め、心に寄り添い、生徒・保護者から信頼される教職員集団。
- ・生徒の個性を尊重し、主体性を引き出しながら学びをサポートする教職員集団。

(3) 令和3年度の目標

ア アウトプット（活動指標）

共通ルーブリックと単元ルーブリックを作成し、生徒と教員が振り返りを行う。生徒が自己理解・分析を行い、教員が生徒の現状を把握し、指導に活かす。

イ アウトカム（成果目標）

ルーブリックによる「基礎・基本に基づく幅広い教養」「気付き力」「解決に向けて思考する力」「論理的に相手に伝える力」「仲間と協働する力」の評価結果がレベル3以上である生徒の割合が50%以上になっている。

(4) 令和3年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

- ア カリキュラムの核とする教科・科目等名  
「産業社会と人間」

## イ カリキュラム開発の概要

### (マクロレベル)

「育成を目指す資質・能力」の共通理解を促すために、校内研修で教育目標も含め再確認した。「育成を目指す資質・能力」を基に、全教員の意見を反映させながらマスタールーブリックを作成した。

カリキュラム開発に係って、6月にカリキュラム開発研究指定校の事業内容と「学びの変革」アクションプランが目指す姿の確認、10月に新学習指導要領の方向性及び目標と指導と評価の一体化について理解を深める目的で、校内研修をそれぞれ実施した。

### (ミクロレベル)

1年次の「産業社会と人間」を核として、生徒が各教科・科目及び総合的な探究の時間で習得した資質・能力を相互に関連付けながら、実生活や社会の中で総合的に活用できるようにすることを目指した。そのために、課題に気付く力を養い、基礎・基本に基づく幅広い教養、解決に向けて思考する力、論理的に相手に伝える力、仲間と協働する力を活用して、気付いた課題を主体的に解決しようとする姿勢を育成するカリキュラム開発に取り組んだ。

1年次は、自分とは何かを知ることから始まり、自分は今後どう生きていくかまで考えさせるため、福山大学の小原友行教授の指導を受け、年間計画を大きく5つのテーマに再構成し実施した。

〔自分を知る〕 自分史を通して自分を振り返り、適性を知る。

〔働くとは何かを知る〕 職業リサーチや県内企業人による講演視聴等を通して働く意義を知る。

〔学ぶとは何かを知る〕 上級学校リサーチや進路ガイダンス等を通して学ぶ意義を考える。

〔社会とは何かを知る〕 新聞やインターネット、専門家の講演等を通して社会認識を図る。

〔自分の生き方を考える〕 職業インタビューやライフプラン作成を通して、自分の生き方について考える。また、情報収集力や分析力の育成、KP法等による思考の論理的整理法を学んだ。

## ウ 校内体制

学びの変革プロジェクト会議において、小原教授の助言を基に本校の特色を生かした取組や方向性について協議し、具体的な内容については、教育研究部で探究の視点を重視したものになるよう指導方針を検討した。それを授業の事前事後に学年会で共有し、生徒の実態の把握を行いながら、指導方法の改善を柔軟に行った。教科横断的視点も取り入れるため、他教科とも連携しながら実施した。

全教員で、ある一定期間互いの普段の授業を自由に見る「参観授業」を、1・2学期に各1回ずつ実施し、主体的な学びへの指導やパフォーマンス課題、評価方法なども含め研鑽した。

## (5) 学習評価

生徒による単元ごとの記述式の振り返りと、教員による行動観察を基に、生徒の実態を把握し、毎週の学年会でその情報を共有し、指導方法・目標の修正を行った。

ルーブリックと民間テスト結果を比較した際、評価に大きな差がある生徒もいることから、ルーブリックの精度を上げるため、検証会議を踏まえて、今後見直しを行っていく。

## (6) カリキュラム評価

### (マクロレベル)

11月と2月にカリキュラム開発実行委員会で、カリキュラムの内容や方向性、主体的で対話的な学びへの指導方法等の検証を行った。

### (ミクロレベル)

3月に民間テスト結果の検証を実施した。S～Dの5段階レベルの評価によると、「批判的思考力（情報を抽出し吟味する）」の観点ではCが51%（101人）であり、必要な情報を抽出し客観的に評価する力が不足していることがわかった。また、「批判的思考力（論理的に組み立てて表現する）」の観点ではBが46%（92人）、Cが49%（98人）であった。ほとんどの生徒が主張や根拠を提示し説明することができるが、それを論理的に組み立てて行う力が不足していることが明らかになった。これらのことから、次年度に向けて学習内容や評価方法の見直しを行う。

### 3 令和3年度の成果及び課題

#### (1) 成果

生徒は、単元ごとに200字以上の文章表記による振り返りを行った結果、約9割の生徒が200字以上を書くようになり、自己理解・分析につながったと考える。また、生徒から「物事を広い視点で見る力がついた」「客観的視点で物事を見ていこうと思った」「実際に疑問に思うことに対して、自分ができることを探し行動していきたい」などの発言があったことから、この指導が有効であったと考えられる。

教員は、毎週の学年会を持つことで、どういった活動が生徒の力を育成するのか、何が生徒にとって良いのか等建設的な意見交換ができ、目標・指導・評価の一体化に向けて取り組んだ。

#### (2) 課題

生徒の文章表記による振り返りは、量的には成果としてあげられるが、資質・能力を客観的に図り、教員と生徒双方の認識の共有を図る点で課題が残る。「社会とは何かを知る」の単元では、ルーブリックによる数値の振り返り・評価ができ、「論理的に相手に伝える力」が一番ついたと感じた生徒が7割を超え自己評価が高い。しかし、民間テストでは、論理的に組み立てて説明する力があると評価が付いた生徒が4%（7人）と少なく、生徒の実感との差が大きいことがわかった。この差を埋めるため、生徒が論理的に思考する手立てが必要である。また、その他の資質・能力に関しては、1年間の振り返りとしてルーブリックを活用し見取りを行った。レベル3以上になっている割合として、「基礎基本に基づく幅広い教養」は44.1%、「気付く力」は46.1%、「解決に向けて思考する力」は45.2%、「仲間と協働する力」は93.4%であった。ルーブリックが客観的かつ適切に資質・能力を図るものになっているか改善していく必要がある。

### 4 令和4年度の目標及び取組内容

#### (1) 令和4年度の目標

##### ア アウトプット（活動指標）

前年度で明らかになった課題を反映して、共通ルーブリックと単元ルーブリックを作成し改善する。それを活用して、教員と生徒双方の認識の共有を図る。

##### イ アウトカム（成果目標）

見直しを行ったルーブリックによる資質・能力の評価結果が、レベル3以上である生徒の割合が50%以上になっている。

#### (2) 令和4年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

##### ア カリキュラム開発の概要

2年次の「総合的な探究の時間（E-DOT）」をカリキュラム開発の核としていく。

本年度「産業社会と人間」で行った情報収集・分析、ICT活用、思考や表現方法など知識・技能を得る学習を生かし、課題発見・解決の思考を深めるため、新聞やインターネットを活用したり、専門家等の助言をいただくことで、多くの情報に触れ、読解力を養い、深く思考し、自分の考えを表現する力を育成する。

##### 〔身近な課題を発見・解決〕

1年次の「産業社会と人間」の授業等で得た知識・技能を活用し、地域・社会の諸課題を見つけ出し、社会と探究を関連づける。

##### 〔進路課題解決〕

インターンシップやオープンキャンパスなど進路情報の収集や自身を振り返る中で、自己実現のための進路課題を見出す。

##### 〔探究の理解〕

グループで探究を試行し、意味や必要性を学び、探究に向かう姿勢を持たせる。

##### 〔生徒の興味関心の探究〕

身近な社会の課題や良さを見つけ、自身の進路や興味・関心に基づき、探究課題を見つける。

##### イ 校内体制

学びの変革プロジェクト会議を軸に取組や方向性について協議し、教育研究部で具体的内容について検討し、学年会で共有し実施していく。教科横断的な学びを視野に入れ、総合的な探究の時間以外の教科とも関わらせながら進める。